

病態生理を踏まえた睡眠時ブラキシズムに対するスプリントの臨床的役割

大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座
口腔生理学教室教授 加藤 隆史

歯科医師は、顎関節症や口腔顔面痛・頭痛の症例、補綴装置やインプラントの管理困難な症例の背後に、睡眠時ブラキシズム (Sleep bruxism [SB]) の存在を疑うことが多い。睡眠中の咀嚼筋活動は、睡眠状態によって変動する中枢神経の運動指令によって生じる。したがって、生理学的・医学的には、いわゆる SB が示す咀嚼筋活動は、睡眠中の多様な咀嚼筋活動のうちの一つである。さらに、様々な睡眠障害が睡眠中に咀嚼筋活動を生じさせる可能性があることや、SB と睡眠障害が併存することも明らかとなってきた。つまり、顎口腔系に与えるバイオメカニカルな影響の原因は単一ではないので、少なくとも SB と他の睡眠障害をスクリーニングすることは大切である。現時点で、SB に対する確実な治療法は存在しない。スプリントは SB の減少効果を確実には予測できないが、顎口腔器官への機械的な負荷を軽減できる。その一方で、処方時に必要な注意点もある。本講演では、睡眠医学的視点で SB を考察しながらスプリントの臨床的役割を考察するとともに、薬物療法や行動療法に関する情報についても可能な限りアップデートする予定である。



加藤 隆史 (かとう たかふみ)

略歴

1994 年	大阪大学歯学部歯学科卒業
1998 年	同大学大学院歯学研究科修了
1998-2003 年	モントリオールサクリカ病院睡眠生体リズム研究所、モントリオール大学歯学部・同大学神経科学研究所 博士研究員および研究助手
2003 年	松本歯科大学 講師
2005 年	同 准教授
2008 年	松本歯科大学病院歯ぎしり睡眠時無呼吸症外来 主任 (兼務)
同 年	大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座口腔解剖学第二教室講師
2013 年	大阪大学医学部附属病院睡眠医療センター (兼務)
2016 年	大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学 福井大学 連合小児発達学研究科 附属子どものこころの分子統御機構研究センター (兼務)
同 年	大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座口腔生理学教室教授
非常勤講師 (現)	：日本大学、長崎大学

受賞

2001年

Prix Jean-Paul Lussier

同年

CADR Post-doctoral Research Award

2005年

IADR Distinguished Scientist Award- Young Investigator Award

2014年

大阪大学歯学部弓倉学術奨励賞